南部アカマツの振興策について

岩手県久慈地方振興局　林業普及指導員　石亀　竜太

1　はじめに

久慈地方振興局管内は、岩手県北の沿岸部に位置し、久慈市、洋野町、野田村、普代村の１市１町２村からなる行政区域です。区域面積１０万８千haで、そのうち森林面積９万ha、民有林面積７万６千haで８０％以上が森林です。また、管内の主な一次産品は、ウニ、アワビ、ホウレンソウ、乾しいたけ、木炭等があります。

このように自然に恵まれた土地柄のなかで、当地方のアカマツは久慈市侍浜の保護林に代表されるように非常に形質がよく、また、量的にも人工林のなかでアカマツ６５％、スギ２３％、カラマツ１１％で、アカマツの占める割合が最も多く、優良な資源が豊富に存在している。

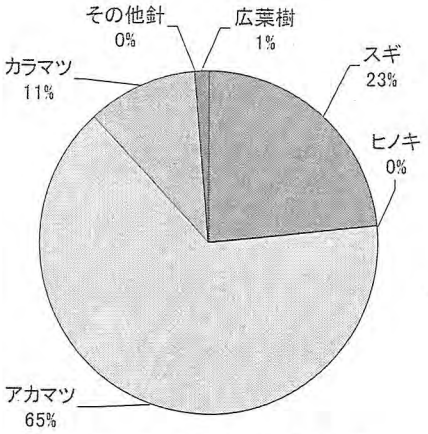
洋野町のアカマツ林

久慈市侍浜の保護林

しかしながら、木材価格の低迷からアカマツの取引が低調となっているのが現状です。

このようなことから、森林整備が遅れ、間伐されたとしても切捨間伐が多い状況となっており、有用な資源が林地に残存される状況となっております。

久慈地方の林業振興は、豊富な地域志現であるアカマツの有効活用にかかっていることから、有利販売のしくみづくりについて、検討することとしました。



人工林における樹種構成

2　取り組みの内容

(1)　流通実態の把握

まずは、流通実態を把握する必要があることから、管内の素材生産業者及び製材業者から聞き取り調査を実施することとしました。調査対象は平成１３年度時点で登録されている、管内の全ての素材生産業者及び製材業者とし、素材生産業者５６者、製材業者２６者となりました。方法は、訪問により実施しました。

(2)　キーパーソンインタビューの実施

管内の有力な林業関係者２８名（内アカマツ関係１５名）に対し、アカマツの振興策について、提言を求めることとしました。

(3)　振興策の展開

上記(1)、(2)をもとに振興策を検討し実施することとしました。

3　聞き取り調査結果

聞き取り調査の結果、主な特徴は下記のとおりです。

(1)　素材生産業者

①木材価格が安く、経営が困難である。特にアカマツは安い。

②大口需要は、周辺のチップ工場である。アカマツチップは再生紙用に向いており需要が高まっている。

③出荷先で取扱が多いのは、チップ工場のほかは、県森連の木材流通センターである。

④同流域内に大手の合板工場があるが、ほとんど出荷されていない。

⑤大規模な業者では、取引先を複数確保しており、用途に応じ取引先を選択し、効率よく出荷しているケースもある。

⑥中小規模の業者では、材の良し悪しにかかわらず、１箇所にまとめて出荷する等、あまり効率の良い取引とは言えない状況が多い。

⑦関東・関西方面では、倍以上の高値で取引される場合もあるが、長距離輸送のためコストがかさむ。

(2)　製材業者

①全般的に、国産材より外材の取扱が多い。

②国産材については、地元からの調達がほとんどであるが、なかには、管外からの仕入れもある。

③中小規模の業者では、多くの場合、受注生産が中心であり、ストックを持っていない。

④アカマツについては、工務店からの注文が少ない。（人気がない。）

⑤カラマツ等のラミナ製材が増えており、利幅が少ない。

4　アカマツの振興策について

素材生産業者、製材業者からの聞き取り結果と、キーパーソンインタビューをもとに、次のとおり振興策を展開することとしました。

(1)　アカマツの高付加価値化に対する補助

地方事務所権限で採択する県単独補助事業を活用し、アカマツの天然乾燥施設整備に対する補助事業を実施しました。

天然乾燥とは、たいこ挽きしたアカマツ材を積み上げ、一番上に屋根をかけて、６ヶ月間自然に乾燥させた後、集成挽きして出荷するもので、今回の補助は、一番上に乗せる屋根部分の制作費用に対し、２分の１の補助金を交付するものです。

事業主体は森林組合、事業費３５０万円で、３０基整備しました。

この天然乾燥材については、近年の安全・安心志向から、需要が増えており、高付加価値化のモデルケースとなることを期待しています。

(2)　アカマツの商標登録

天然乾燥材をはじめとして、原木から製材品までの商標を登録することにより、久慈地方のアカマツのブランド化を図ろうするもので、森林組合が申請主体となり、現在申請中であります。

最近、アカマツ材の特注が増えており、商品にこだわりを見せることによって、更なる販路拡大を期待しています。

(3)　大口需要への供給体制の強化

同流域内に全国規模の合板工場があるにもかかわらず、当管内からほとんど出荷されていない状況であり、Ｂ・Ｃ級材まで無駄なく活用することを目的として、「久慈地方木材安定供給連絡会議」を開催し、需要者と素材生産業者との意見交換会実施しました。

会議では、「大口需要の情報を知ることができて良かった。」等の感想や、一方、「納入しやすい仕組にしてほしい。」等の要望も出され、活発な意見交換が交わされ、大口需要者と素材生産業者のマッチングがはかられたようです。また、この合板工場への出荷を検討するという業者の申し出が数者ありました。

(4)　上下流連携いきいき流域プロジェクト事業

アカマツ産業の活性化を図ることを目的とし、国庫補助事業の「上下流連携いきいき流域プロジェクト事業」を導入しました。対象流域は、久慈・閉井川、馬渕川上流、三八上北の３流域とし、事業費３００万円で実施することとしました。

事業の構成としては、まず、シンポジウムにより、地域全体のアカマツに対する意識の高揚を図ること、管内や県外の状況について、アンケート調査等を実施し、流通状況を把握すること、シンポジウムと流通状況調査の結果を踏まえ、アカマツ振興についての検討会を開催し、振興策を検討するという組立で進めています。

5　まとめ

今年度展開してきた行動を踏まえ、今後の課題を以下にまとめました。

(1)　アカマツには、神社・仏閣等の建築・改築等の特殊用材、一般建築用材、合板用材、再生紙用原料等、幅広い用途があり、用途に応じ、無駄なく、より高い価格で取引できるような流通システムについて検討する必要があります。

(2)　グリーン購入法の施行や、耐震強度への関心の高まりから、国産材のニーズが増えていると思われ、需要者と生産者のマッチングを図る必要があります。

(3)　地元工務店等では、アカマツの需要は少ないため、アカマツの欠点を分析し、利用拡大の普及啓発を展開する必要があります。

(4)　アカマツ産地としての情報発信や有利販売の方法を検討する必要があります。

これらの課題について、関係者が協力してアカマツの振興策を展開し、また、地域全体で南部アカマツを盛り上げ、アカマツ王国を目指しがんばっていきたいと思います。